

第1回「新たな船舶検査・測度制度の構築に向けた検討会」議事要旨

日 時：平成30年6月26日（火）14：00～16：00

場 所：中央合同庁舎3号館1階共用会議室

出席者：

委員 一般財団法人日本海事協会 執行役員技術研究所長 松本委員
一般財団法人日本海事協会 船級部長 石橋委員代理
(執行役員検査本部長河関委員の代理)
三菱造船株式会社 取締役常務執行役員 北村委員
阪神内燃機工業株式会社 執行役員技術部長 田中委員
一般社団法人日本船主協会 常務理事 大森委員
株式会社ディー・エヌ・エー 執行役員オートモーティブ事業本部長 中島委員
国土交通省側
海事局検査測度課 重富課長
海事局検査測度課 神谷統括船舶検査官

議事次第：

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① 検討会の設置と検討の進め方について
 - ② 船舶検査・測度の概要と改革の方向性について
 - ③ 個別テーマに関するプレゼンテーションと意見交換
- (3) 今後の予定等

会議要旨

- (1) 冒頭、重富検査測度課長より、以下のとおり挨拶があった。
 - ・ AI や IoT が活用される新しい時代の船舶検査・測度のあり方について検討したい。
 - ・ 合理化や品質向上等、関係者が利益を享受できることが大切であるが、船舶検査・測度制度は長い歴史を有するが故に、硬直性があるという現実もあり、どのような改革ができるか議論したい。検討会は「遠隔技術」、「データの利活用」、「電子証書や手続きの電子化」の3つを中心のテーマとしたい。
 - ・ 第1回の検討会として、新たな船舶検査・測度制度の構築に向け、意識合わせ・課題の抽出・検討を行いたい。
 - ・ 今年度、検討会を進めていく中で、議論だけでなくトライアルも行うことを考えているので、それを視野に入れて、自由闊達な議論を行っていただきたい。
- (2) 本検討会の開催要綱、議事録の取扱いについて承認された。
- (3) 事務局から、検討会の設置と検討の進め方及び船舶検査・測度の概要と改革の方向性について説明を行った。
- (4) 各委員より個別テーマに関するプレゼンテーションが行われた。

(5) 意見交換

各種説明及びプレゼンテーションを踏まえ、意見交換がなされた。委員からの主な意見は、以下のとおり。

- ・製造現場や運航現場においてはデジタルライゼーションが進んでおり、船舶検査・測度の受検者がその利益を享受できることは重要。
- ・受検者が持つデータの活用により、検査が簡素化されることは有意義。しかし、簡素化するに当たって事前にどのようなデータを収集・確認し、どう判断していくかが課題。
- ・大規模工事の際の課題として、現在の状態から改造によって船舶の性能がどう変わるのかの予測が難しい点があり、3次元データがその予測に有用。また、工事や検査にも活用できるのではないか。
- ・新しい取組について、コスト等の面から実際に導入されるのは時間を要する可能性がある。
- ・たとえば3次元データの配管の検査への活用等、現在行われている取組を新たな検査制度に取り込んでいくことは技術的ハードルとしては高くない。データを有する造船所や船主が利益を享受できるような展開を作ることが肝要。
- ・船舶の一生を通じて情報を管理できるようなプラットフォームができると有用。

今後の予定等

個別の検討事項については、ワーキンググループを立ち上げ、必要に応じてトライアルを実施することとされた。また、各ワーキンググループでの検討結果を基に、次回会合にてさらに詳細を議論することとされた。

—以上—